【１学期終業式　式辞】　　一皮むける　～前傾姿勢でＳＩＮＫＡをめざして～

１学期の終業を刻む日となりました。大過なく伸びやかに学校生活が送られたことを、何よりも喜びたいと思います。「**安全・安心な学びの場づくり**」に努めてきましたが、概ね達成できたのではないかと思います。ただし、見えていない、気づいていない「危険の火種」があるかもしれません。もしもあるなら、伝えてください。いつでも、どんな手段でもかまいません。約束します。私たち教職員は、一丸となって皆さんの学校生活の安全・安心の確保に努めます。

さて、終業日の今日、話は一つだけにします。それは、「**みんなで一皮むけよう**」ということです。

皆さん、まずは柑橘類を想像してください。ミカンぐらいが適当でしょうか。皮ごと丸かじりする人も稀にいますが、多くは皮をむいて食べる、さらに内側の薄皮までむいて食べる人もいます。「おいしさ」の感覚は人それぞれですが、大げさに言えば、皮をむいた先にある「おいしさ」の真実を求めていく人間の行為がそこにはあります。少し「**真理の探究**」に似ていませんか。薄皮までむいて食べる人は「**理想の追求**」をしているとまで言えるかもしれません。考えてみると、人はいつミカンを食べ物として意識し始めたのでしょうか。外皮を見ただけで食べ物とは思わずに食べるものとして放棄した人たちもきっといたでしょう。そんな中で、「**進取の気象**」をもって果敢に未知なるミカンに挑んだ人がいたはずです。皮をむくといった人間的行為を編み出した先駆者がいたからこそ、ミカンは食べ物としての地位を確立していった、そんな「ミカンが食べ物として認知されていく歴史」があったはずです。「これは食べられるはずがない」といった外観からの思い込み、先入観によって排除されはしなかった人類の英知による歴史。きっとミカンだけではなく、猛毒を持つ河豚（ふぐ）が食用として珍重されるようになる歴史など、時には命を賭して「奇怪なもの（怪物）」に挑む勇者たちがいたからこその今がある。大げさかもしれませんが、人類の進歩は「**前傾姿勢**」による挑戦によって築き上げられてきたのでしょう。進歩は「ＳＩＮＫＡ」の一類型です。

前置きが長くなりました。伝えたいのは、**本校の校訓や学校教育目標に掲げられた言葉たちは、これからの皆さんの学びや成長、挑戦にとって大いなる勇気を与えてくれるものだ**ということです。**本校は成長につながる挑戦を後押しする言葉、雰囲気に満ちています**。勇気をもって挑みましょう。

現状に安住し満足するな、尻込みし歩みを止めるな、未来に続く世界は今よりもっと輝いているはずだ。どうする、今のままでいいのか。変えたくないか、自分をそして社会を。よりＳＩＮＫＡに向かうためには、一歩目を踏み出すことだ。ミカンなるものの皮をむいてみる勇気を持つことだ。人の成長も同じ。**現状に満足せず、よりよき未来に向かって各人で「一皮むけよう」ではないか**。

個人によって、むく皮が違って当然。大きさも色も厚みもむき方も、みんな違ってみんないい。大切にしたいのは、「むく」という行為に踏み出すこと、前傾姿勢で。みんながそれぞれ一皮ずつむいていけば、新しい集団の真実が見えてくるかもしれない。見てみたい、一皮むけた島前高校を。

ある生徒は、自分を変えたいと言う。内向きな自分から誰とでも交流できる自分に変わりたいと言う。話しかけられるのを待つのではなく、自ら話しかければいい。これも一皮むけるということ。

別の生徒は、授業に臨む姿勢を変えたいと言う。言われるがまま座っているだけの自分から、知識をどんどん吸収する自分に変わりたいと言う。集中力を高めるために、自分の周りから余計なものを排除した。排除の先には吸収できる頭のスペースができた。これも一皮むける行為であろう。

いじめや差別を憎む生徒がいて、困っている人を助けたいのに助けられない自分に苛立っている。やめようの一言が言い出せない。同志を見つけてみんなで動く。大人の助けを借りる。自分だけが大きく変わらなくてもいい。変えようと動き出すことができれば、それも一皮むけるということ。

ある人と話したことがあります。問題点や欠点ばかり目につく自分が嫌でたまらないと伝えると、理想の在り方をイメージしているからこそ改善点に目が行くのであって、否定する必要はないと助言があった。ネガティブ発想をポジティブにとらえていく契機となった、一皮むけた瞬間でした。

大きく変わるのはたしかに難しいことです。でも、**一皮むけるのはさほど困難ではない、心がけ次第**です。みんなで個々に一皮むける、結果として集団が大きく変わる、そんな島前高校でありたいと願います。学園祭の命名への挑戦も、高校が一皮むける契機となるでしょう。準備から実際まで、どんな皮をどうむくか、皆さんのそれぞれの挑戦に期待しています。

夏が明けたとき、一皮むけた皆さんの笑顔と再会できることを期待し、終業式の式辞とします。

平成３０年７月２０日　　校　長　多々納　雄二